DRAFT
(修正なし)

「これってどういう意味？―虫の声って何？」【台本】(1人Ver.)

収録日：2025／●／●　収録場所：●●

公開日：2025／●／●

パーソナリティ：○○先生（拠点：）

✓ 想定するリスナー層：日本語学習者・生活者

- リスナーの疑問　　：これって、どういう意味？
- ラジオ番組の効果①：リスナーの日常の疑問が解決
- ラジオ番組の効果②：日本語のリスニング能力の向上
- リスナーのメリット：日本での生活がより快適になる

✓ 本番組の構成

- オープニング：番組紹介 & BGM（1分）
- 本日のテーマ：「虫の声って何？」（●分）
- メイン：「日本人にしか聞こえない？」（●分）
- エンディング：出演の感謝 & 締めの言葉（1分）

以下、本番組のタイムテーブルです。

本番組のタイムテーブル

TIME	FLOW（全体の尺：●分）

00:00	■ オープニング：番組紹介 ＆ BGM（1分） □ 番組紹介　※イントロは毎回同じことを言う。 M：　みなさん、こんにちは！お元気ですか。 今日も「これって、どういう意味？」が始まりました。 この番組ではテキストには書いていない、レッスンでは出てこない、でもネイティブが毎日普通に使っている日本語をお届けします。 ・本日のテーマ：虫の声って何？（●分） M：　皆さんは日本で秋を過ごしたことがありますか。←必ず質問から入る 夏の終わりごろから、夕方になると草むらのあちこちから「チン、チン、チン」とか「リーン、リーン」という音がするのを聞いたことがありますか。これが何の音か知っていますか。実はこれ、全部「虫の声」なんです。このラジオを聞いている皆さんは「いいえ、声（voice）じゃないです。音（sound）です。虫は話しませんから。」と思うかもしれませんが、日本人は「声」だと思っているんです。 ―今日は「虫の声って何？」を紹介します。 ・メイン：日本人にしか聞こえない？（●分） M：　では皆さん、もう一つ質問です。 ―日本で夏を過ごしたことがありますか。 日本では夏は**どこに行ってもセミがたくさんいます。朝から一日中セミの声が聞こえます。東京でも大きな木の近くに行くと、セミの大合唱（big chorus）を聞くことができます。** セミも日本人は音（sound）ではなく、声（voice）だと思って聞いているんです。 ―これはどうしてなんでしょう。 ある大学の先生が国際会議に行った時、同じ「虫の音」を聞いても他の国の人には 聞こえていないことに気付きました。このことを不思議に思った先生が「日本人の 耳と外国人の耳には何か違いがあるのではないか」と気になり、研究をしました。 人間の脳は右脳（right brain）と左脳（left brain）に分かれていて、右脳は「音」

を、左脳は「ことば」を担当しています。

先生が色々な国の人に色々な音やことばを聞いてもらい、脳のどの部分が反応する
のか調べたところ、日本人は「虫の音」を左脳で、つまり「ことば」として聞いて
いることが分かりました。そしてさらに、虫だけでなくそのほかの動物の鳴き声、
雨や風や波の音、葉っぱの揺れる音や小川のせせらぎなど自然の音、ほかにも日常
のたくさんの色々な音を、日本人は「左脳―ことばの脳」で聞いていることが分
かりました。本当に「虫の声」として聞いていたのです。

反対に日本人以外のほとんどの外国の人は「虫の音」を機械の音や車の音や雑音
(ノイズ)と同じように「右脳―音の脳」で聞いていたことが分かったのです。
とてもおもしろい研究結果ですね。

そしてもっと面白いことに、秋の虫もセミも種類がたくさんありますが、日本人は
聞いただけでどの虫やセミの「声」か聞き分けることができるんです。まるで誰が
話しているのか、声を聞いて分かるみたいな感じです。

日本にはオノマトペがたくさんありますが、たくさんある理由はもしかしたら、雨
の音や風の音、そして波の音などの自然の音をただの「音」として聞くのではな
く、色々な音を「声」として聞く日本人の耳が生み出したことばなのかもしれませ
んね。

■エンディングトーク ： 本日のまとめ＆ 締めの言葉（１分）

今日ご紹介した「虫の声って何？」はいかがでしたでしょうか。
同じ音を聞いても、それを「音」として聞いているのか、「声」として聞いてい

	るのか、その違いは脳のどこで反応しているかということが分かってとても面白かったですね。今度日本の街で虫が鳴いているのを聞いたり、雨の音を聞いた時は、どんな「声」か気を付けて聞いてみてください。いつもの毎日が違う一日になって、きっととても楽しいジャパンライフを過ごせますよ！ （※今回はフレーズが無いので最後の復習タイムも無し。） M：最後まで聞いてくださり、ありがとうございました。（←必ずお礼と締めを入れる） それでは、次回もどうぞお楽しみに！また聞いてくださいね！さようなら～。